

高知大学 大学院総合人間自然科学研究科

修士課程 理工学専攻

学生確保の見通し等を記載した書類

目 次

1	学生確保の見通し及び申請者としての取組状況	
	(1) 学生確保の見通し	1
	(2) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況	6
	(3) 学生納付金の設定の考え方	7
2	人材需要の動向等社会の要請	
	(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	8
	(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえた ものであることの客観的な根拠	8

高知大学大学院総合人間自然科学研究科
修士課程理工学専攻
学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生確保の見通し

1) 定員充足の見込み

理工学専攻の入学定員の設定に当たり、基礎学部となる理工学部（設置初年次は理学部）等からの入学ニーズを基に、入学ニーズと輩出した修了生に対する社会からの需要等を分析して、入学定員を設定する。

基礎学部等からの入学ニーズについては、下記「2）定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」で示す通り、現理学部3年生及び現理工学部2年生を対象としたアンケート調査及び前身の理学専攻への他大学等からの進学実績を基に分析した結果、数学物理学コース **13名**、生物科学コース **12名**、情報科学コース **12名**、化学生命理工学コース **15名**、地球環境防災学コース **7名**、を含む合計 **59名**程度の進学実績が継続的に見込まれることが分かった。このような入学ニーズに基づき、専攻全体で 55名と入学定員を設定する。この55名という規模は、理工学専攻の前身である現理学専攻の直近3年間の平均進学実績数（53名）からも適正な数字と考えられる。

修了生に対する社会からの需要は、下記「2. 人材需要の動向等社会の要請」で示す通りであり、「数学物理学コース」には141社155名程度、「生物科学コース」には38社33名程度、「情報科学コース」には224社347名程度、「化学生命理工学コース」には71社69名程度、「地球環境防災学コース」には109社141名程度の採用意向・採用規模があり、設定する入学定員55名を大幅に上回る需要がある。

また、見込まれる入学者に対して86名の専任教員の配置は、数学物理学コース17名（教授8名）、生物科学コース21名（教授8名）、情報科学コース10名（教授4名）、化学生命理工学コース19名程度（教授6名）、地球環境防災学コース19名（教授8名）となる。入学見込みに対するST比は、数学物理学コース0.76、生物科学コース0.57、情報科学コース1.20、化学生命理工学コース0.79、地球環境防災学コース0.37となり、複数教員による研究指導体制を敷くことなどを考慮したとしても、十分な指導体制を採ることができる入学定員となっている。

2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

ア 基礎学部（理学部3年生）における入学意向調査結果

理工学専攻の設置に関する入学ニーズ把握のため、基礎学部となる理学部3年生（在籍者数：理学科129名、応用理学科115名）を対象に、進学に関するアンケート調査を行った。調査は、【資料1：進学に関するアンケートについて（3年生）】のアンケート項目により実施し、実施に当たっては、【資料2：理工学専攻（仮称）】

【構想人材育成イメージ】を学生に示すとともに、学生が所属する学科の教員から、新専攻の概要及び各コースで育成する人材像・教育課程等の詳細な説明を行った。

そのアンケート調査結果は、以下のとおりである。

学科名	コース名	回答者数	在籍者数	回答率
理学科	数学コース	36	47	76.6%
	物理科学コース	13	13	100.0%
	化学コース	5	11	45.5%
	生物科学コース	38	48	79.2%
	地球科学コース	2	10	20.0%
応用理学科	情報科学コース	26	28	92.9%
	応用化学コース	26	41	63.4%
	海洋生命・分子工学コース	21	30	70.0%
	災害科学コース	16	16	100.0%
	未回答	1	—	—
	計	184	244	75.4%

「Q1. 大学院修士課程へ進学し、修士の学位を取ることを考えていますか。」

の回答

①取りたいと思う	46
②取ることを検討している	33
③取らないと思う	104

「Q1」において、「①取りたいと思う」、「②取ることを検討している」と回答した者（79名）の「Q5 大学院修士課程理工学専攻が設置された場合、あなたは受験したいと思いますか。」の回答

①受験したいと思う	65
②受験しないと思う	14

「Q4」の「人材像」に関する回答（「①」、「②」と回答した者の合計は134名（アンケート回答者の61%）

①とても魅力的である	36
②ある程度魅力的である	98

「Q4」の「身につく能力」に関する回答（「①」、「②」と回答した者の合計は158名（アンケート回答者の72%）

①とても魅力的である	47
②ある程度魅力的である	111

「Q4」の「カリキュラム」に関する回答（「①」、「②」と回答した者の合計は126名（アンケート回答者の59%）

①とても魅力的である	32
②ある程度魅力的である	96

「Q5」において、「①受験したいと思う」と回答した者（65名）の「Q7 大学院修士課程理工学専攻を受験し、入学試験に合格した場合、あなたは入学したいと思いますか。」の回答

①入学したいと思う	58
②入学しないと思う	7

以上の基礎学部の学生に対するアンケート調査結果からは、理工学専攻に「入学したい」と考えている学生が58名いることが分かった。この58名の進学を希望するコースの内訳は以下のとおりである。

数学物理学コース	<u>15名</u>
生物科学コース	<u>12名</u>
情報科学コース	<u>10名</u>
化学生命理工学コース	<u>15名</u>
地球環境防災学コース	<u>6名</u>

イ 基礎学部からの継続的な学生確保を検証するための調査結果（理工学部2年生）

「ア」と同様の方法により、基礎学部となる理工学部2年生（在籍者数：数学物理学科58名、情報科学科33名、生物科学科50名、化学生命理工学科71名、地球環境防災学科44名）を対象に、基礎学部からの継続的な学生確保を検証するためのアンケート調査を行った。調査は、【資料3：進学に関するアンケートについて（2年生）】のアンケート項目により実施し、実施に当たっては、【資料2：理工学専攻（仮称）構想人材育成イメージ】（再掲）を学生に示すとともに、学生が所属する学科の教員から、新専攻の概要及び各コースで育成する人材像・教育課程等の詳細な説明を行った。

そのアンケート調査結果は、以下のとおりである。

コース名	回答者数	在籍者数	回答率
数学物理学科	45	58	77.6%
情報科学科	32	33	97.0%
生物科学科	39	50	78.0%
化学生命理工学科	64	71	90.1%
地球環境防災学科	35	44	79.5%
未回答	4	-	-
計	219	256	85.5%

「Q1. 大学院修士課程へ進学し、修士の学位を取ることを考えていますか。」
の回答

①取りたいと思う	39
②取ることを検討している	62
③取らないと思う	117

「Q1」において、「①取りたいと思う」、「②取ることを検討している」と回答した者（101名）の「Q5 大学院修士課程理工学専攻が設置された場合、あなたは受験したいと思いますか。」の回答

①受験したいと思う	67
②受験しないと思う	32
未回答	2

「Q5」において、「①受験したいと思う」と回答した者（67名）の「Q7 大学院修士課程理工学専攻を受験し、入学試験に合格した場合、あなたは入学したいと思いますか。」の回答

①入学したいと思う	56
②入学しないと思う	11

以上の理工学部2年生に対するアンケート調査結果からは、理工学専攻に「入学したい」と考えている学生が56名いることが分かった。この56名の進学を希望するコースの内訳は以下のとおりであり、5つのコースともに継続的に学生を確保できることが確認された。

数学物理学コース	<u>11名</u>
生物科学コース	<u>10名</u>
情報科学コース	<u>12名</u>
化学生命理工学コース	<u>16名</u>
地球環境防災学コース	<u>7名</u>

ウ 基礎学部（理学部）以外からの進学者の見込み

上記の「ア」、「イ」で示したアンケート調査結果は、基礎学部である理学部3年生及び理工学部2年生を対象としたものであるが、基礎学部以外から進学してくる者の見込みについては、設置予定の理工学専攻の前身である理学専攻の過去の5年間の実績を活用し算出する。なお、理学専攻から理工学専攻への改組に当たっては、情報科学・化学生命理工学・地球環境防災学の分野において、工学的な機能強化・拡充を行うことが中心であるため、縮小する分野はない。そのため、従来の理学専攻の入学実績を活用するにあたっては、当該実績を下回る要因はないと考えられる。

他大学等から理学専攻への進学者の過去5年間の実績は以下のとおりであり、専攻全体で3名程度（各コース1名弱程度）の進学が見込まれる。なお、新専攻各コースへの人数振り分けについては、指導教員の主たる専攻分野を基に行っている。

○他大学等からの進学実績（5ヵ年）

	H26	H27	H28	H29	H30	平均	見込み
理学専攻全体	6	7	2	2	1	3.6	<u>3名</u>
【指導教員の専門分野を基にした振り分け結果】							
数学物理学コース	0	1	0	0	0	0.2	<u>0名</u>
生物科学コース	1	2	1	1	0	1.0	<u>1名</u>
情報科学コース	1	2	0	0	0	0.6	<u>1名</u>
化学生命理工学コース	2	0	0	0	0	0.4	<u>0名</u>
地球環境防災学コース	2	2	1	1	1	1.4	<u>1名</u>

エ 基礎学部を対象とした入学意向調査及び基礎学部以外からの入学実績を基にした学生確保に関するまとめ

上記の「ア 基礎学部（理学部3年生）における入学意向調査結果」、「イ 基礎学部からの継続的な学生確保を検証するための調査結果（理工学部2年生）」及び「ウ 基礎学部（理学部）以外からの進学者の見込み」から算出される入学定員の見込みは以下のとおりである。

	基礎学部対象 アンケート 上段：3年次 下段：2年次	他大学等から の入学実績	見込み (3年次と2 年次の平均＋ 他大学等)
数学物理学コース	15 ----- 11	0	<u>13</u>
生物科学コース	12 ----- 10	1	<u>12</u>
情報科学コース	10 ----- 12	1	<u>12</u>
化学生命理工学コース	15 ----- 16	0	<u>15</u>
地球環境防災学コース	6 ----- 7	1	<u>7</u>
理工学専攻全体	58 ----- 56	3	<u>59</u>

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

専攻として、組織的に下記のような取り組みを戦略的に実施する。

- ① 「大学院進学説明会」を5～6月と12月時期を含む2回以上開催し、修士課程での教育・研究、修士号取得までの流れ、および修了後のキャリアパスを具体的に説明する。また、ロールモデルとなり得るように、現役の大学院生による、自身の大学院での研究生活・院生生活に関する紹介を通じて大学院のイメージの具体と大学院生活の魅力に触れることで、進学へのモチベーションをあげる活動を行う。進学説明会は学部初年次生からの参加を促すとともに多くの学生に参加を呼びかけ、初年次から大学院進学についての意識づけを行う。学部1年生においては、大学生活に慣れてきた5月下旬から6月に大学院進学説明会を実施することで、卒業後の進路として大学院進学への意識付けを行い、進路希望に「進学」の選択肢を強く意識させる。入学者選抜は7月の自己推薦特別選抜から始まるので、進学希望の学部3年生には1年前からの準備を、4年生には迫ってきた大学院受験の具体的なイメージ

を喚起できるスケジュールとする。12月の大学院進学説明会では、就職活動の準備や進路を決定する時期にあたる学部3年生を含めて大学院での研究生生活を紹介することで、進学への意識付けの効果を狙い、この時期に説明会を実施することとする。

- ② 理工学部1年生第1学期の必修科目である「大学基礎論」においては、「自身の将来像やキャリアの展望を持つ」ことが授業目的の一つに挙げられている。大学院担当副学部長が「大学基礎論」で講義する機会を捉え、基礎学部である理工学部1年生に、大学院進学を進路選択の一つとして意識させるような内容を取り入れる。このことにより、進路として「進学を考えていない」とした学部初年次生にも大学院の存在を認識させるとともに大学院生活の魅力を伝え、進学者を掘り起こし、大学院進学者の上乗せを図る。
- ③ 教員、研究内容、カリキュラム、進路などを紹介した理工学専攻紹介リーフレットを分野ごとに作成し、進学説明会などで配付する。また、基礎学部からの専攻への進学者の割合が約9割となっているので、理工学系の大学院を有する中四国の大学にもリーフレットを発送し、受験者の掘り起こしに努めることで、学生数の上乗せを図っていく。
- ④ 理工学部パンフレットにも、大学院生の活動を紹介し、進路の一つとして大学院進学を意識させる。4月の入学時、及び進級時に理工学部パンフレットが学部学生に配付されるので、大学院生が自身のロールモデルとなるように、写真とともに掲載される大学院生の活動紹介を通し、大学院とそこでの生活の魅力を最大限伝え、本専攻への大学院進学への動機づけを与える。
- ⑤ 研究室配属された学部3・4年生に対しては、研究室ごとに配属時に大学院紹介を行うとともに、大学院進学案内を適時行う。
- ⑥ 経済的理由で進学をあきらめようとするのが無いように、「卓越した大学院生への授業料免除制度」や日本学生支援機構による奨学金制度のサポート制度を積極的に紹介する。

加えて、博士課程に関する内容ではあるが、平成31年1月22日付け、中央教育審議会大学分科会による「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿」の中で、「優秀な人材の進学への促進」などの内容も参考として、記載にもある通り、大学院という存在に対して理解が深まっていない者に対して、上記の取り組みを通して、大学院で学ぶ意義や修了後の見通しなどを、組織的に戦略を持って効果的に伝えていく。

(3) 学生納付金の設定の考え方

本学の納付金は、授業料年額535、800円で「国立大学等の授業料その他費用に関する省令」第2条に定める標準額と同額、かつ近隣の国立大学法人と同額である。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本専攻では、理学及び理工学に関する専門的知識を修得し、グローバル化する社会の中で自ら課題を発見し、それを解決していける能力の身についた人材を育成し、地域社会や国際社会において、地域イノベーションの創出と持続可能な社会づくりに貢献できる高度専門職業人を養成する。そのため、専攻内に数学物理学・生物科学・情報科学・化学生命理工学・地球環境防災学の5つのコースを配置し、理学・理工学に関する修士レベルでの教育を実施する。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1) 人材需要の動向把握に向けた調査結果

社会的・地域的な人材需要の動向等を調査するため、平成30年11月に企業・団体等を対象としたアンケート調査を実施した。調査対象は、基礎学部である理学部（改組後の理工学部を含む。）や大学院理学専攻（修士課程）宛に求人実績のある約700社である。なお、過去の各種アンケート調査時の回答率等を基に、「見込み回答率」を15～20%と設定した。

調査は、養成する人材像・教育課程等を示すものとして【資料2：理工学専攻（仮称）構想人材育成イメージ】（再掲）を用い、【資料4：理工学専攻（仮称）設置に関するアンケートについて】のアンケート項目Q1～Q9により実施した。

実施結果は下記のとおりであり、当初設定した「見込み回答率：15～20%」と比較し、大幅に上回る回答があったことから、本専攻の設置計画に関する高い関心がうかがえる。

対象企業数	回答企業数	回答率
716社	311社	43.4%

【資料4】のアンケート項目のうち、「Q6 理工学専攻が設置された場合、当専攻の修了生を採用する可能性を教えてください。」の回答は以下のとおりである。

①採用したいと思う	<u>297社</u>
②採用しないと思う	14社

「Q6」で「①採用したいと思う」と回答した 297 社に対して行った「Q7 理工学専攻のどのコースの修了生を採用したいと考えますか。」及び「Q8 理工学専攻の修了生を採用する場合、何人程度の採用が見込まれますか。」の回答

	「コースの修了生を採用したい」と回答した企業・団体数（※1）	見込まれる採用人数の合計（※2）
数学物理学コース	<u>141 社</u>	<u>155.6 名</u>
生物科学コース	<u>38 社</u>	<u>33.8 名</u>
情報科学コース	<u>224 社</u>	<u>347.1 名</u>
化学生命理工学コース	<u>71 社</u>	<u>69.8 名</u>
地球環境防災学コース	<u>109 社</u>	<u>141.1 名</u>
	計	<u>747.4 名</u>

※1 採用意向については、コースを「複数回答可」として調査している。

※2 「採用人数」については、「〇名/〇年」などの回答をした企業・団体があったことから、「見込まれる採用人数の合計」を算出する際に小数点が発生している。

「1名/2年」との回答：0.5名として計上

上記のように、アンケート調査からは、理工学専攻が養成する人材に対しては 297 社が「採用したい」との意向を有していることが分かった。

コース別では、「数学物理学コース」には 141 社 155 名程度、「生物科学コース」には 38 社 33 名程度、「情報科学コース」には 224 社 347 名程度、「化学生命理工学コース」には 71 社 69 名程度、「地球環境防災学コース」には 109 社 141 名程度の採用意向・採用規模がある。

この結果、専攻全体の入学定員 55 名に対して十分な採用意向が示されているとともに、「(1) 学生確保の見通し」で示されているコース別の入学見込み人数（数学物理学コース 13 名、生物科学コース 12 名、情報科学コース 12 名、化学生命理工学コース 15 名、地球環境防災学コース 7 名）に対しても、十分な採用意向・採用規模が示されている。

以上のことから、本専攻の設置計画は、社会的・地域的な人材需要と合致していると考えられる。

2) 社会人の学び直しに関する調査結果【参考調査】

社会的・地域的な人材需要に関する別の観点として、「社会人の学び直し」に関する調査を実施した。調査対象は、「1) 人材需要の動向把握に向けた調査」の対象企業（求人実績のある企業 715 社）であり、【資料 4：理工学専攻（仮称）設置に関するアンケートについて】（再掲）のアンケート項目 Q10・Q11 により実施した。

【資料4】のアンケート項目のうち、「Q10 貴社・貴組織の社員等を理工学専攻へ社会人入学させたいと考えますか。」の回答は以下のとおりである。

①入学させたいと思う	33 社
②入学させたいと思わない	252 社
③無回答	26 社

上記のように、社数は多くないものの、一定の企業・団体から、本専攻の設置計画に関し、自社の社員を「社会人院生として入学させたい」との意向が示されている。

「Q10」で「①入学させたいと思う」と回答した33社に対して行った「Q11 入学させたい場合、どの頻度で入学させたいと考えますか。」の回答は以下のとおりである。

	「入学させたい」と回答したコースの内訳（※1）	入学させたい人数（※2）
数学物理学コース	8 社	5.1 人
生物科学コース	0 社	0 人
情報科学コース	13 社	12.5 人
化学生命理工学コース	3 社	1.0 人
地球環境防災学コース	8 社	2.2 人

※1 「入学させたい」コースは、「複数回答可」として調査している。また「入学させたい」コースを「検討中」と回答した企業・団体があることから、Q10で「①入学させたいと思う」と回答した総企業数と一致しない。

※2 「入学させたい人数」については、回答形式を「〇人／〇年」としているため、1学年の入学人数を算出する際に小数点が発生している。

「1名／2年」との回答：0.5名として計上

以上のように、参考調査ではあるが、企業側に対して行った「社会人の学び直し」に関する調査結果によると、新専攻に「入学させたいと思う」と考える企業・団体数が一定数存在していることから、本専攻の設置計画は、社会的・地域的な人材需要と合致していると考えられる。

進学に関するアンケートについて

このアンケートは、大学3年生の皆さんに卒業後の大学院進学についての考えをお聞きし、現在計画している新しい修士課程の専攻を設置するための参考資料とさせていただきます。

大変お忙しい時期かと思いますが、本アンケートの主旨をご理解の上、何卒ご協力をいただけますようお願い申し上げます。

なお、本内容は構想中のものであるため、変更の可能性があります。また、新専攻の名称等については、すべて「仮称」です。

平成31年1月
高知大学

F1. 性別(いずれかに○)

1. 男性 2. 女性

F2. 所属学科(ひとつに○)

1. 理学科 2. 応用理学科

F3. 所属コース

コース

Q1. 大学院修士課程へ進学し、修士の学位を取ることを考えていますか。

1. 取りたいと思う 2. 取ることを検討している
3. 取らないと思う

Q2. Q1で1.2.を回答された方にお聞きします。

修士の学位を取りたいと考えるのはどのような理由からですか。(複数回答可)

1. 興味のある分野の研究をしたいから
2. 学部で身に付けた知識・技能をさらに深めたいから
3. 就職の際に活躍の場が広がるから
4. 学校教員の専修免許状など大学院で取得できる資格に関心があるから
5. 大学等の教育機関や企業等で研究・開発に携わりたいから
6. その他()
7. 特に理由はない

Q3. Q1で1.2.を回答された方にお聞きします。

修士課程において、どのような能力等を修得したいですか。(複数回答可)

1. 専門領域に関する深い学識 2. 自己の専門領域を俯瞰できる力
3. 総合的視点からの知識 4. 研究手法の基礎力と応用力
5. 数理的・論理的な判断力 6. 高度な専門知識を実践的に活用できる能力
7. 課題設定能力と課題解決能力 8. 創造力
9. その他()

Q4. 現在高知大学では、大学院総合人間自然科学研究科に基礎理学をベースに応用分野まで幅広い素養を持ち、特色ある研究を活かしたイノベーションの創出や持続可能な社会づくり、災害に強い地域づくりに貢献できる高度専門職業人としての理工系人材を育成する理工学専攻の設置を計画しています。(別紙参照)

この理工学専攻について、次の項目についてそれぞれどの程度魅力を感じましたか。

・「人材像」について

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. とても魅力的である | 2. ある程度魅力的である |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり魅力的ではない |
| 5. まったく魅力的ではない | |

・「身につく能力」について

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. とても魅力的である | 2. ある程度魅力的である |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり魅力的ではない |
| 5. まったく魅力的ではない | |

・「カリキュラム」について

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. とても魅力的である | 2. ある程度魅力的である |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり魅力的ではない |
| 5. まったく魅力的ではない | |

Q5. 理工学専攻が設置された場合、あなたは受験したいと思いますか。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 受験したいと思う | 2. 受験しないと思う |
|-------------|-------------|

Q6. Q5で1.を回答された方にお聞きます。

受験したいと思うコースはどのコースですか。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 数学物理学コース | 2. 生物科学コース |
| 3. 情報科学コース | 4. 化学生命理工学コース |
| 5. 地球環境防災学コース | |

Q7. Q5で1.を回答された方にお聞きます。

理工学専攻を受験し、入学試験に合格した場合、あなたは入学したいと思いますか。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 入学したいと思う | 2. 入学しないと思う |
|-------------|-------------|

Q8. Q7で1.を回答された方にお聞きします。

高知大学の理工学専攻への入学を考える理由は何でしょうか。

1. 興味のある分野の研究ができるから
2. 高知大学の大学院に進学することで、学部で身に付けた知識・能力をより高度に深めることができるから
3. 地域や社会に貢献したいから
4. 学校教員の専修免許状など大学院で取得できる資格に関心があるから
5. その他()
6. 特に理由はない

Q9. Q7で2.を回答された方にお聞きします。

そのように考える理由は何でしょうか。

1. 他大学への進学を第一希望としているから
2. 就職を第一希望としているから
3. その他()
4. 特に理由はない

Q10. 理工学専攻に関するご意見等ございましたら、ご自由にお書き下さい。

質問はこれで終了です。ご協力いただきありがとうございました。

1. 改組前・改組後の専攻の育成する人材像

現理工学専攻の目的

学部が実施する基礎理学及び応用理学の教育研究を発展的に継承し、数学・物理・化学・生物・地学に加えて、情報・物質・海洋・生命・災害等の分野で高度な知識と技術を涵養し、人類社会の恒久的課題や焦眉の課題に積極的に取り組む専門職業人を育成することを目的とする。(理学専攻規則第2条)

- 大学の使命**
- ・創造的探究心と豊かな人間性を持った人材の育成
 - ・諸科学の基礎と応用について創造的独創的研究を行い、学術文化の進展に寄与する人材の育成
 - ・世界の文化と人類福祉の向上に貢献するとともに、地域社会の振興、教育と文化の向上及び福祉の増進に努める人材の育成

国や県からの要請

- ・経済の活性化 『高知県産業振興計画』
- ・教育の充実 『全国一学びの機会が多い県づくりを目指して』
- ・豊かな自然環境と中山間地域 『生物多様性こうち戦略』
- ・課題解決型産業創出の推進 『高知県IoT推進ラボ研究会』
- ・災害に強い街づくり 『高知県強靱化計画』『高知県地域防災計画』『高知県南海トラフ地震対策行動計画』

理工学専攻の目的

高知県の地域特性を最大限活用し、理学及び理工学に関する専門的知識の修得を通じて、地域イノベーションの創出と持続可能な社会づくりに貢献することで、高知県のみならず社会全体の発展に寄与することを目的とする。

2. コースごとの育成する人材像

数学物理学コース	生物科学コース	情報科学コース	化学生命理工学コース	地球環境防災学コース
<p>数物系の知識・考え方を応用する 高度専門技術者・研究・教育者</p>	<p>生物多様性・環境の保全を リードする高度専門職業人</p>	<p>高度情報化社会で活躍できる 高度専門技術者・研究者</p>	<p>化学・生命理工学分野で地域の 諸課題を解決する理工系人材</p>	<p>持続可能な自然共生型社会の 発展に貢献できる人材</p>
<p>理工学すべての基礎的分野と位置付けられる数学及び物理学を専門的に教育し、各専門領域に関する深い学識をもって基礎理学の進展を目指し、社会における様々な理系分野において独創性を発揮しながら中心的役割を担うことができる人材を育成。</p>	<p>生物多様性をもたらす適応進化とその駆動力となる生物間相互作用や環境の成り立ち・仕組み、生物多様性を支える生命機構を理解し、それらの保全をリードする高度専門職業人を育成。</p>	<p>高度情報化社会で活躍できる、ハードウェアとソフトウェアの両面にわたる高度専門技術者・研究者を育成。</p>	<p>化学・応用化学分野と生命科学分野の幅広く高度な専門知識と実験技術を備え、専門家としての高い倫理観を持ち、自ら思考して地域や社会の様々な課題を見出し、その解決に取り組める理工系人材を育成。</p>	<p>自然が関わる事象(環境・防災・減災・地域づくり)に対して適切な課題設定のもと、問題解決する能力を備えた、地域社会や国際的な場で貢献できる高度専門職業人及び研究関係従事者を育成。</p>
<p>◆身に付ける能力等 自己の専門領域に関する深い学識と研究者として自己の専門領域を俯瞰することのできる力</p>	<p>◆身に付ける能力等 生物学に加えて進化の歴史も含んだ幅広い総合的な観点からの生物科学の知識、野外調査や室内実験における研究手法の基礎力と応用力</p>	<p>◆身に付ける能力等 創造力、課題解決能力、数理的・論理的な判断力、情報倫理に基づいてハードウェアとソフトウェアに関する高度な専門知識を実践的に活用できる能力</p>	<p>◆身に付ける能力等 化学・生命理工学分野の幅広い事象の理解に必要な専門学力、自ら思考し結果を予測する能力、課題設定能力と課題解決能力</p>	<p>◆身に付ける能力等 地球環境と自然災害に関する基礎及び専門知識と課題探求能力</p>
<p>修士(理学)</p>		<p>修士(理工学)</p>		
<p>◆想定される進路 教育関係(教員, 学習塾関係など)、公務員、電気情報関連製造業(電機メーカー、情報機器メーカー、ソフトウェア会社など)、金融関係(銀行など)、製造業関係、大学院博士課程進学 など</p>	<p>◆想定される進路 教育関係(教員, 学芸員, 出版社など)、公務員、環境関連産業、環境・地質コンサルタント、食品産業、地域づくり推進機関(NPO, 自治体, ジオパーク)、バイオ産業、大学院博士課程進学 など</p>	<p>◆想定される進路 電気情報関連製造業(電機メーカー、情報機器メーカー、機械メーカー、ソフトウェア会社など)、教育関係(教員, 専門学校など)、公務員、金融機関(銀行など)、大学院博士課程進学 など</p>	<p>◆想定される進路 材料・化学メーカー、医薬・農業、環境分析、石油化学、食品、化粧品、製造業、電気電子機器、機械、バイオテクノロジー関連企業や研究所、公務員(国家公務員・地方公務員)、教育関係機関(教員など)、大学院博士課程進学 など</p>	<p>◆想定される進路 コンサルタント(環境・地質・土木・建設・測量など)、ゼネコン、システム開発、製造業、精密機器、医療品、電気情報関連製造業(ソフトウェア会社など)、サービス業、公務員、大学院博士課程進学 など</p>

専攻を支える私達の
現在の研究活動
過去の研究実績

あなたと啓く 真理の扉
あなたと創る未来の技術

Science & Technology

化学生命理工学コース

- 化学・生命科学，境界領域での先端研究
 - ・廃材を利用した材料開発
 - ・放射性元素の分離精製法
 - ・光触媒を用いたモノづくり
 - ・生体利用可能な高輝度二光子励起蛍光色素の開発
 - ・発生初期の遺伝子転写の仕組み解明
- 国際学術誌の表紙を飾る優れた研究
- 学会等の奨励賞受賞，特許

情報科学コース

- 情報科学の基盤分野に加え，教育工学，電子ホログラフィ，障害者支援技術，ソーシャルネットワーク，機械学習などの先端的研究
- 国際学術誌Cell, Nature electronics 等に発表される質の高い研究（表紙を飾る研究成果）
- 多くの受賞—HODIC技術部門賞受賞（教員），優秀発表賞等（最近5年で10名以上の学生）
- 多彩な共同研究—月周回衛星「かぐや」，小惑星探査「はやぶさ2」プロジェクト参加，気象衛星ひまわりの画像利活用，内閣府革新的研究開発推進プログラム参加等

地球環境防災学コース

- 地球環境の変遷，地震・大気現象のメカニズムの解明
 - 最新の高度な分析機器を数多く有する高知コアセンターとの連携・国際プロジェクトへの参画
- 地震災害・風水害等の自然災害を防ぐ研究
 - 地元木材（丸太）を用いた液状化対策工法の開発
 - 高知市新庁舎，八戸漁港岸壁耐震工事に採用

高知の地から世界の知へ

数学物理学コース

- 純粋数学・応用数学に関する様々な先端的研究
 - 山下太郎学術研究奨励賞の受賞
- 磁性と超伝導に関する新奇相転移の発見
 - 日本物理学会論文賞に選出
- クォーク・ハドロン物質の相構造研究で独創的な研究成果を発信し続けている
 - 米国学術誌レター及び注目論文に選出

生物科学コース

- 様々な謎に迫るユニークな研究
 - ・生物の分類や系統進化
 - ・生態，細胞の形づくり
 - ・動物の行動
- 生物圏を空間的拡がりだけでなく，時間軸でも捉える教育・研究体制
 - ・古生物から現代の生態系まで

設置の趣旨・必要性

地域的・社会的課題・ニーズ

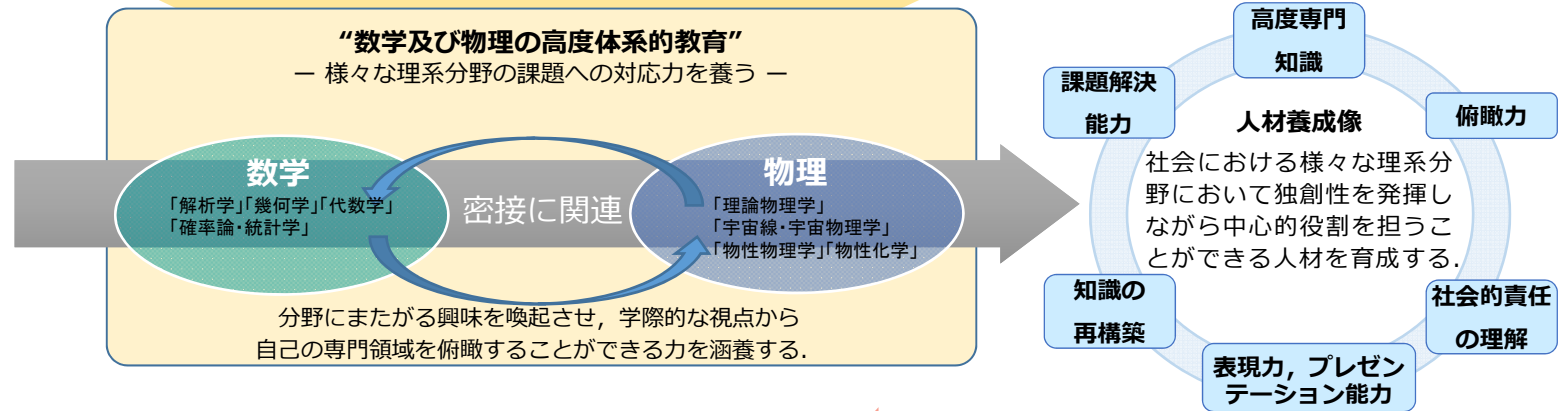
「地域の教育における理数科目の学力低下」 ⇔ 「地域の教育分野への人材育成」
 「産業における基礎理学基盤の弱体化」 ⇔ 「数学的・物理学的発想ができる人材の育成」

社会貢献を見据えた基礎理学へと深化

【アドミッションポリシー】	【カリキュラムポリシー】	【ディプロマポリシー】
学士課程での専門領域についての基礎事項を身に付け、好奇心をもって意欲的に課題に取り組むことができる。	専門領域に関する高度な知識を体系的に修得し、再構築できる能力や、課題に対し演繹的・帰納的に解決できる能力を涵養するとともに、多様な意見・価値観や制度の存立を認識し、その中で自らの位置を確認することで自らの社会的責任を理解するためのカリキュラムを編成する。	高度な知識を体系的に修得し、再構築できる。解決すべき課題を自ら設定し、獲得した高度な専門知識を応用して解決法を探ることができる。高度な専門知識を身に付けた自らの社会的責任を理解することができる。

求める資質・能力

- (1) 好奇心をもって意欲的に課題に取り組むことができる
- (2) 問題解決の基礎
- (3) 科学的かつ論理的思考への自覚
- (4) 学士課程での専門領域についての基礎的事項の理解



数物系の知識・考え方を応用する
 高度専門技術者、研究・教育者の育成

想定される就職先

教育関係 (教員, 学習塾関係など), 公務員, 電気情報関連製造業 (電機メーカー, 情報機器メーカー, ソフトウェア会社など), 金融関係 (銀行など), 製造業関係, 大学院博士課程進学 など

社会に還元

- ・ 大学院で学び修得した能力を発揮し、地域での教育の発展に貢献することができる人材を送り出す。
- ・ 専門的知識や論理的思考力を発揮して、社会における様々な分野で課題点を見出し改善策などを考え実行に移すことができる変革のリーダーとなり得る人材を送り出す。

設置の趣旨・必要性

県内産業の長期にわたる成長・発展の礎として、産業人材の育成・確保が課題

地域社会や国際社会において、地域イノベーションの創出と持続可能な社会づくりに貢献できる高度専門職業人の育成が求められている

・持続可能な社会構築へ向けた地域・地球環境の理解と保全のため、多様な環境・多様な生物群にもとづく教育が求められている。

・一方、豊かな高知県・南四国の自然環境だが……
 (生物的要因) 鹿などの食害による緑地の喪失
 (社会的要因) 高齢化による耕作放棄地の存在
 林業従事者の減少による森林の荒廃
 (地球的要因) 近年の気候変動による自然環境の変化

生態系への影響が懸念されている

「生物多様性こうち戦略」(H26.3)
 生物多様性の保全と持続可能な利用に関する施策を総合的かつ計画的に推進

高知県の自然の恵みを将来にわたって享受できる自然共生社会の構築が期待されている
 専門性と応用力へと深化

【アドミッションポリシー】	【カリキュラムポリシー】	【ディプロマポリシー】
学士課程において生物科学の基礎及び適切な情報発信の方法を身に付け、研究に主体的に取り組み、修得した知識をもとに社会に貢献する強い意志を有している。	生物学に加えて進化の歴史も含んだ幅広い総合的な観点からの生物科学の知識を活用しながら、野外調査や室内実験における研究手法の基礎と応用を身に付けた人材を育成するためのカリキュラムを編成する。	生物多様性をもたらす適応進化とその駆動力となる生物間相互作用や環境の成り立ち・仕組み、生物多様性を支える生命機構を理解し、地域に根ざした『生物多様性』と生物を胚胎する『環境』の保全をリードする。

求める資質・能力

- (1) 生物科学の研究に主体的に取り組む姿勢
- (2) 社会に貢献する意思
- (3) 生物科学の基礎知識
- (4) 研究に関する基礎的な技能
- (5) 適切な情報発信の方法

“南四国におけるフィールド実習・現地調査”
 ー 種々のフィールド・サイエンスに関する実践的教育ー
 豊かな高知県・南四国の自然環境を背景に、充実した教育の提供

生物科学に関する幅広い教養科目

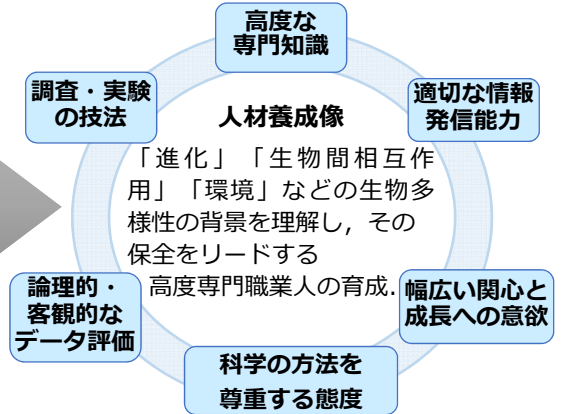
マクロ系(個体～生態系):分類学,生態学,古生物学,理論生物学
 ミクロ系(分子～細胞):生理学,細胞生物学
 様々な生物を網羅した教育科目

比較生化学

現生の生物多様性に基づく
 「分子系統学」
 「酵素の分子進化学」

古生物学・古環境学

最新の生物学的知識に立脚した
 「古生物学」
 古生態系復元の要となる
 「古環境学」



生物多様性・環境の保全をリードする
 高度専門職業人の育成

社会に還元

- ・ 生体分子機能に関する知見を利活用して環境変化の予測や地域産業の発展に貢献する。
- ・ 地域に根差し、世界を視野に入れた環境教育、環境評価、保全活動、バイオ関連産業などを担う。
- ・ 生物科学に加え、古生物学や古環境学の観点から、様々な時間スケールで生じる自然環境中の課題を解決する。

想定される就職先

教育関係(教員,学芸員,出版社など),公務員,環境関連産業,環境・地質コンサルタント,食品産業,地域づくり推進機関(NPO,自治体,ジオパーク),バイオ産業,大学院博士課程進学 など

設置の趣旨・必要性

Internet of Things (IoT)時代の到来により、情報産業や情報系のイノベーションが地域社会に与える影響は多大である。これにより、地域社会はめまぐるしく変動する高度情報化社会から取り残される恐れがある。



地域的・社会的ニーズ

情報倫理に基づいて、高度情報化社会に対応できるハードウェアとソフトウェアに関する高度な専門知識を活用し、地域社会をけん引できる人材育成が求められている。

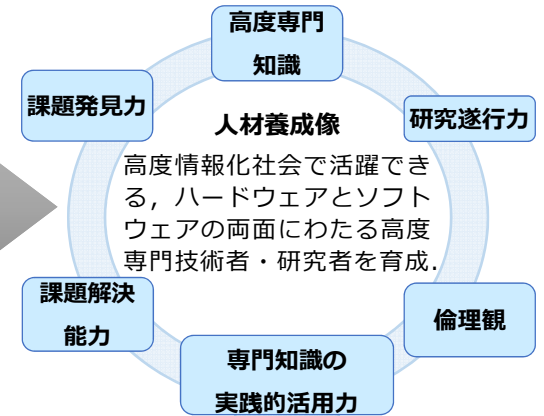
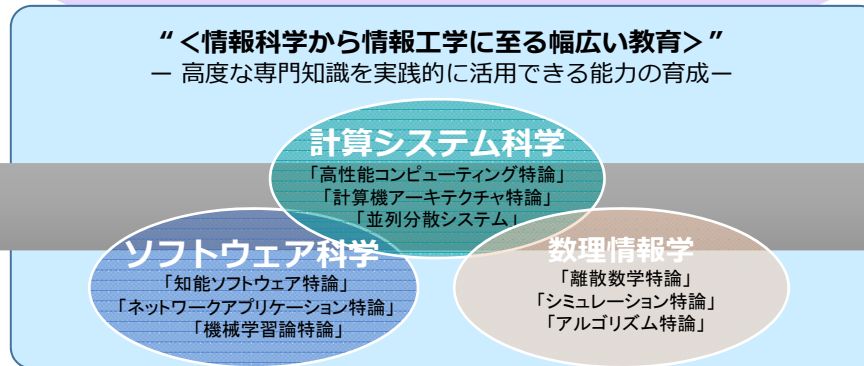
高度情報化社会を担える人材を育成するカリキュラムへと深化

【アドミッションポリシー】	【カリキュラムポリシー】	【ディプロマポリシー】
学士課程において情報科学及び情報工学に関する知識を修得し、強い研究意欲や学術研究に対する真摯な姿勢を身に付けている。	最新の研究動向を把握するとともに、明晰かつ批判的な思考力と判断力及び学問的な倫理観と高度専門職業人としての社会的責任を涵養し、かつ独創性、創造性を伴う知的意欲及び関連分野への幅広い関心を喚起するカリキュラムを編成する。	情報科学及び情報工学について最先端の知識を身に付け、問題の本質を明晰かつ批判的に分析し、的確に判断ができる。また、研究成果を広く社会に還元するとともに、自らの研究と行動について負うべき責任を理解することができる。

求める資質・能力

- (1) 強い研究意欲
- (2) 学術研究に対する真摯な姿勢
- (3) 情報科学及び情報工学に関する学士レベルの知識
- (4) 客観的かつ合理的な思考
- (5) 学習・研究計画を正確に説明できる

“<情報科学から情報工学に至る幅広い教育>”
— 高度な専門知識を実践的に活用できる能力の育成 —



高度情報化社会で活躍できる人材の育成

- ・めまぐるしく変動する高度情報化社会において、地域社会をけん引し、持続可能な社会づくりに貢献できる。
- ・ハードウェアとソフトウェアの両面で、情報科学の理論と情報倫理に基づいた的確な判断と実践的な活用ができ、情報通信産業を担う人材として活躍できる。
- ・情報科学および情報工学に関する理解と知識に基づいて問題の本質を把握するとともに、明晰かつ批判的に分析することで、高度情報化社会が与える地域社会の課題を解決する。

社会に還元

想定される就職先

電気情報関連製造業（電機メーカー、情報機器メーカー、自動車・機械メーカー、ソフトウェア会社など）、教育関係（教員、専門学校など）、公務員、金融機関（銀行など）、大学院博士課程進学 など

設置の趣旨・必要性

グリーン・イノベーション&ライフ・イノベーション創出への高度化
 新しい価値を生みだし持続可能な地域・社会へと変えていくための高度人材育成

急激な少子化による人口減少

超高齢化社会の到来

産業基盤の脆弱化&経済の衰退

医療費の増大



地域的・社会的ニーズ

ものづくり技術の継承, 人材育成
 持続可能な資源利用&低炭素社会の実現
 高齢化社会を支える予防サービス 革新的な診断方法の開発
 バイオ技術進展による産業創出

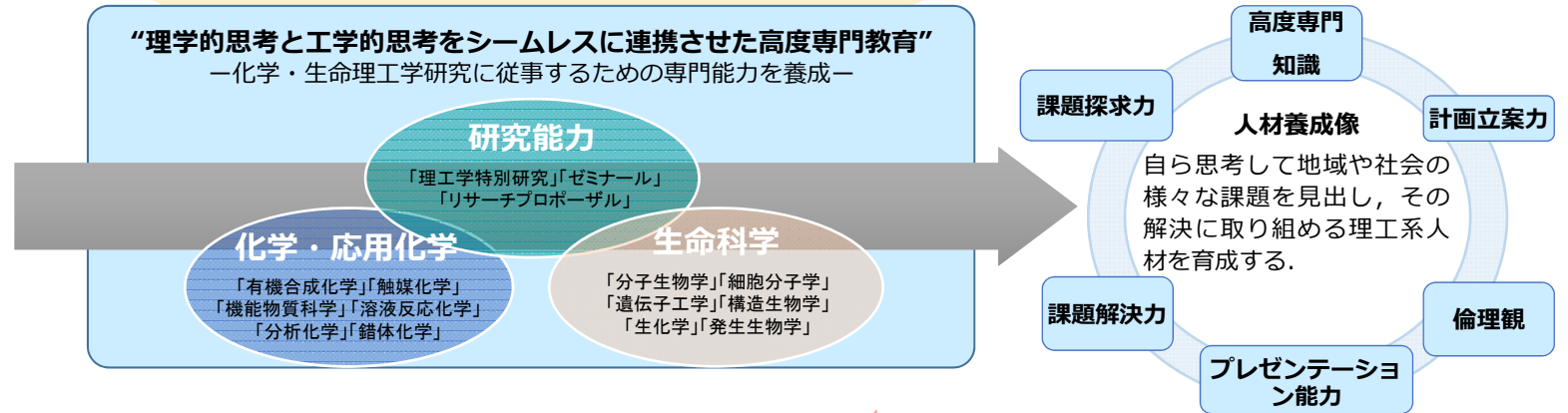
地域・社会の将来を担う理工系人材育成のための高度専門教育へと深化

【アドミッションポリシー】	【カリキュラムポリシー】	【ディプロマポリシー】
化学・生命理工学の幅広い基礎学力と高い学習意欲を持っている。論理的な思考力と専門分野で積極的に研究を行う意欲を持っている。豊かで暮らしやすい社会の持続的構築に貢献できる技術開発・研究能力の修得を目指している。	化学・生命理工学研究に従事するための専門学力や今後の研究計画を立案し遂行する能力, 研究を正確かつ的確に表現する文章力とプレゼンテーション能力, さらには化学・生命理工学分野の最新の研究動向と自身の研究を把握する能力, 専門的な倫理観を養成するためのカリキュラムを編成する。	化学・生命理工学分野の幅広く深い知識を備え, 研究を遂行するための方法を理解し, 専門知識や研究手法を自ら学び課題解決方法を提案することができる。また, 専門家倫理と批判的な思考により, 社会における化学生命理工学分野の動向を判断することができる。

求める資質・能力

- (1) 積極的に研究を行う意欲
- (2) 自ら課題を発見し解決する意欲
- (3) 化学・生命理工学の幅広い基礎学力
- (4) 高い学習意欲と論理的な思考力
- (5) 客観的かつ合理的な思考

“理学的思考と工学的思考をシームレスに連携させた高度専門教育”
 —化学・生命理工学研究に従事するための専門能力を養成—



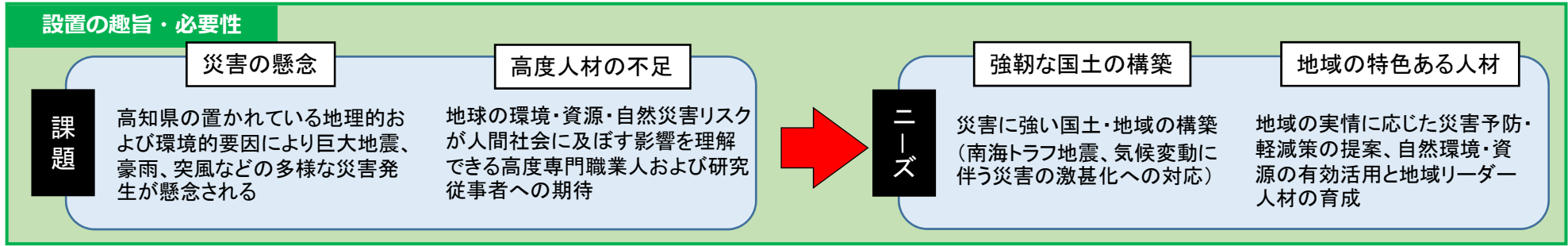
化学・生命理工学分野で
 地域の諸課題を解決する理工系人材

- 修得した化学・生命理工学の専門知識と実験技術, 研究開発能力と専門家の倫理観をもとに, 一般企業や国・地方公共団体などにおいて, 少子高齢化のなかでも持続可能な社会の実現, 安心して暮らせる高齢化社会の実現に貢献する。
- 学校教員などとして地域・社会の将来を担う理工系人材となる子どもたちの教育に携わる。

社会に還元

想定される就職先

材料・化学メーカー, 医薬・農業, 環境分析, 石油化学, 食品, 化粧品, 製造業, 電気電子機器, 機械, バイオテクノロジー関連企業や研究所, 公務員(国家・地方公務員), 教育関係機関(教員など), 大学院博士課程進学など

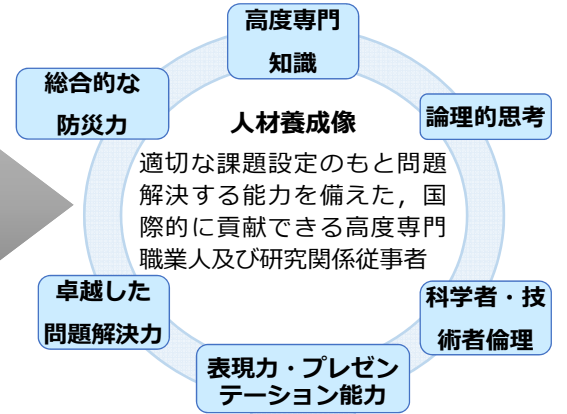
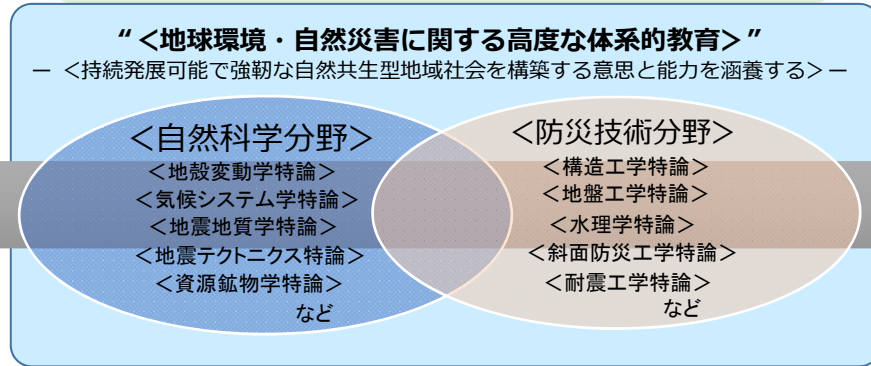


幅広い高度な専門知識に基づく防災人材育成へと深化

【アドミッションポリシー】	【カリキュラムポリシー】	【ディプロマポリシー】
学士課程で学んだ基礎知識と地球環境、自然現象の発生機構、防災に関連する分野の専門知識、将来を模索・想像できる広い視野と柔軟な思考力、社会的問題の解決への意欲を持ち、研究成果を論理的にまとめ異なる意見にも配慮した解決策の提案ができる。	自然科学分野及び防災技術分野に関する専門学力、研究計画を立案する能力、研究を正確かつ的確に表現する文章力とプレゼンテーション能力、また、研究従事者及び高度専門職業人として必要な倫理観を養成するためのカリキュラムを編成する。	地球環境の変化や自然災害リスクに対処できる問題解決能力を有し、持続発展可能で強靱な自然共生型地域社会を構築する意思と能力を身に付けている。

求める資質・能力

- (1) 地球環境・災害に関わる社会的問題の解決への意欲をもつ
- (2) 現在までの動向を分析し将来を模索・創造できる広い視野と柔軟な思考力をもつ
- (3) 調査・研究結果を論理的にまとめ異なる意見にも配慮した解決策の提案ができる
- (4) 学士課程で学んだ基礎知識をもつ
- (5) 成果を社会に還元することができる



持続可能な自然共生型社会の貢献・発展に貢献できる人材

地球環境の変化や頻発する自然災害、防災に関する高度な専門知識を身につけることにより、地域の置かれている地理的・環境的要因、自然災害リスクを深く理解し、「災害に強い地域づくり」や持続可能な自然共生型社会の構築・発展に貢献できる高度専門職業人及び研究関係従業者として社会に還元する。

社会に還元

想定される就職先

コンサルタント(環境・地質・土木・建設・測量など)、ゼネコン、システム開発、製造業、精密機器、医療品、電気情報関連製造業(ソフトウェア会社など)、サービス業、公務員、大学院博士課程進学 など

Q4. 現在高知大学では、大学院総合人間自然科学研究科に基礎理学をベースに応用分野まで幅広い素養を持ち、特色ある研究を活かしたイノベーションの創出や持続可能な社会づくり、災害に強い地域づくりに貢献できる高度専門職業人としての理工系人材を育成する理工学専攻の設置を計画しています。(別紙参照)

この理工学専攻について、次の項目についてそれぞれどの程度魅力を感じましたか。

・「人材像」について

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. とても魅力的である | 2. ある程度魅力的である |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり魅力的ではない |
| 5. まったく魅力的ではない | |

・「身につく能力」について

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. とても魅力的である | 2. ある程度魅力的である |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり魅力的ではない |
| 5. まったく魅力的ではない | |

・「カリキュラム」について

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. とても魅力的である | 2. ある程度魅力的である |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり魅力的ではない |
| 5. まったく魅力的ではない | |

Q5. 理工学専攻が設置された場合、あなたは受験したいと思いますか。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 受験したいと思う | 2. 受験しないと思う |
|-------------|-------------|

Q6. Q5で1.を回答された方にお聞きします。

受験したいと思うコースはどのコースですか。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 数学物理学コース | 2. 生物科学コース |
| 3. 情報科学コース | 4. 化学生命理工学コース |
| 5. 地球環境防災学コース | |

Q7. Q5で1.を回答された方にお聞きします。

理工学専攻を受験し、入学試験に合格した場合、あなたは入学したいと思いますか。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 入学したいと思う | 2. 入学しないと思う |
|-------------|-------------|

Q8. Q7で1.を回答された方にお聞きします。

高知大学の理工学専攻への入学を考える理由は何でしょうか。

1. 興味のある分野の研究ができるから
2. 高知大学の大学院に進学することで、学部で身に付けた知識・能力をより高度に深めることができるから
3. 地域や社会に貢献したいから
4. 学校教員の専修免許状など大学院で取得できる資格に関心があるから
5. その他()
6. 特に理由はない

Q9. Q7で2.を回答された方にお聞きします。

そのように考える理由は何でしょうか。

1. 他大学への進学を第一希望としているから
2. 就職を第一希望としているから
3. その他()
4. 特に理由はない

Q10. 理工学専攻に関するご意見等ございましたら、ご自由にお書き下さい。

質問はこれで終了です。ご協力いただきありがとうございました。

理工学専攻（仮称）設置に関する アンケートについて

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は高知大学のキャリア教育、就職活動にご協力とご理解を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、本学では現在、新しい時代に対応しうる人材育成を目的に、既設の大学院修士課程理学専攻を改組し、大学院修士課程理工学専攻を新たに設置することを検討しております。

そこで、高知大学を卒業・修了した学生の採用や、求人票をご提出いただいている実績がある、企業・団体様の採用の責任者・担当者の皆さまから率直な意見をお聞きし、高知大学大学院修士課程における新専攻設置の参考にさせていただきたいと思い、アンケートを実施することとなりました。

つきましては、ご多用の折、大変お手数ではございますが、本調査の主旨をご理解の上、アンケート調査にご協力いただきたくお願い申し上げます。

敬具

平成 30 年 11 月
高知大学

-----アンケートの実施・ご回答にあたって-----

- 新専攻設置の内容については構想中のものであるため、変更の可能性があります。また、新専攻の名称等については、すべて「仮称」です。
- ご回答いただきました内容につきましては、新専攻設置の検討資料として統計データのみを使用し、個人情報を含むデータを他に転用することは一切ございません。
- ご回答は、本アンケート用紙に直接ご記入ください。
- 誠に勝手なお願いではございますが、ご回答いただきましたアンケートは、同封の返信用封筒（切手不要）にて、**平成 30 年 11 月 30 日（金）**までにご投函くださいますようお願いいたします。

アンケートに関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

<<本件担当>>

高知大学 法人企画課法人企画係
住 所 : 高知県高知市曙町 2-5-1
電話番号 : 088-844-8743

F1. 貴社・貴組織の主たる業種をお選びください。(ひとつに○)

- | | | |
|------------------|----------------|-------------|
| 1. 建設業 | 2. 機械・製造業 | 3. その他製造業 |
| 4. 電気・ガス・水道・熱供給業 | 5. ソフトウェア・情報処理 | 6. その他情報通信業 |
| 7. 運輸業 | 8. 卸売業 | 9. 小売業 |
| 10. 金融・保険業、不動産業 | 11. 飲食業・宿泊業 | 12. サービス業 |
| 13. 公共機関 | 14. 経済団体 | 15. その他 () |

F2. 貴社・貴組織の正社員(職員)数をお選びください。(ひとつに○)

- | | | |
|----------------|--------------|----------------|
| 1. 300 人未満 | 2. 300～999 人 | 3. 1000～4999 人 |
| 4. 5000～9999 人 | 5. 10000 人以上 | |

F3. 貴社・貴組織の本拠地所在地(都道府県・市区町村名)をご記入ください。

都道府県名→

市町村名→

Q1. 本学の卒業生・修了生を採用したことがありますか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 採用したことがある | 2. 採用したことはない |
|--------------|--------------|

Q2. Q1 で 1.を回答された方にお聞きします。

採用したことがある場合の学歴をご回答ください。

1. 学部卒業生
2. 大学院修了生
3. 学部卒業生・大学院修了生の両方

Q3. 貴社・貴組織において、今後大学院修了生の必要性は高まると考えますか。

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 大きく高まる | 2. ある程度高まる |
| 3. 現在と変わらない | 4. 減る |
| 5. わからない | |

Q4. 現在高知大学では、大学院総合人間自然科学研究科に、基礎理学の素養を持ち、地域の活性化に欠かせない地域イノベーションの創出や持続可能な地域づくり、災害に強い地域づくりに貢献できる高度専門職業人としての理工系人材を育成する理工学専攻の設置を計画しています。(別紙参照)

この理工学専攻についての評価を教えてください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. とても評価できる | 2. ある程度評価できる |
| 3. あまり評価できない | 4. 評価できない |

Q5. Q4で1.2.を回答された方にお聞きします。

評価できるとした理由を教えてください。(複数回答可)

1. 社会における様々な理系分野において独創性を発揮しながら中心的役割を担うことができる人材が自社・当団体に必要であるため
2. 生物間相互作用や環境などを理解し、それらの保全をリードする高度専門職業人が自社・当団体に必要であるため
3. 高度情報化社会で活躍できる、ハードウェアとソフトウェアの両面にわたる高度専門技術者・研究者が自社・当団体に必要であるため
4. 化学・応用化学分野と生命科学分野の高度な専門知識を備え、自ら思考して地域や社会の様々な課題を見出し、その解決に取り組める理工系人材が自社・当団体に必要であるため
5. 環境・防災・減災・地域づくりに対して適切な課題設定のもと、問題解決する能力を備えた、高度専門職業人・研究関係従事者が自社・当団体に必要であるため
6. その他()

Q6. 理工学専攻が設置された場合、当専攻の修了生を採用する可能性を教えてください。

1. 採用したいと思う
2. 採用しないと思う

Q7. Q6で1.を回答された方にお聞きします。

理工学専攻のどのコースの修了生を採用したいと考えますか。(複数回答可)

1. 数学物理学コース
2. 生物科学コース
3. 情報科学コース
4. 化学生命理工学コース
5. 地球環境防災学コース

Q8. Q6で1.を回答された方にお聞きします。

理工学専攻の修了生を採用する場合、何人程度の採用が見込まれますか。

採用をしたいと考えるコース別に人数をご記入ください。

コース名	数学物理学 コース	生物科学 コース	情報科学 コース	化学生命理工学 コース	地球環境防災学 コース
採用したい 人数 (人)					

Q9. 理工学専攻に関するご意見等ございましたら、ご自由にお書き下さい。

--

採用に係る質問はこれで終了です。

Q10 からは、社会人の学び直しについておたずねいたします。

Q10. 貴社・貴組織の社員等を理工学専攻へ社会人入学させたいと考えますか。

1. 入学させたいと思う

2. 入学させたいと思わない

Q11. Q10で1.を回答された方にお聞きします。

入学させたい場合、どの頻度で入学させたいと考えますか。

○/●（●年あたり○人を入学させたい）の形式でコース別にご記入ください。

コース名	数学物理学 コース	生物科学 コース	情報科学 コース	化学生命理工学 コース	地球環境防災学 コース
入学させたい 人数 (○人/●年)	/	/	/	/	/

質問はこれですべて終了です。

ご協力ありがとうございました。